

新型コロナウイルス感染症患者に係るゲノム解析結果について

1 ゲノム解析結果

6月1日から7月4日に公表した新型コロナウイルス感染症事例のうち12件についてゲノム解析した結果、3件のオミクロン株(BA.5)が確認されました。

ゲノム解析の結果（環境保健研究センター）

実施時期	総件数 (件)	解析結果 (※)						摘 要	
		アルファ株	デルタ株	オミクロン株 (BA.1)	オミクロン株 (BA.2)	オミクロン株 (BA.5)	その他		解析不能
令和3年12月	3			3					令和3年12月公表分検体
令和4年1月	67		7	52	1			7	令和4年1月公表分検体
2月	48			47				1	令和4年1～2月公表分検体
3月	36		1	35					令和4年2～3月公表分検体
4月	57			33	21			3	令和4年4月公表分検体
5月	46			3	41			2	令和4年4月16日～5月23日公表分検体
6月	64			7	51			6	令和4年2月28日～6月27日公表分検体
7月①	12				9	3			令和4年6月1日～7月4日公表分検体
計	333	0	8	180	123	3	0	19	

※ ゲノム解析は、新型コロナウイルス感染症と確認された事例について実施するが、検査可能数が限られる。概ね5日前後で結果が判明する。

※ BA.5の検体は、いずれも6月28日～7月4日にかけて公表した患者のもの。

2 今後の対応

環境保健研究センターにおいては、12～24件/週のゲノム解析を継続して実施します。

<参考：オミクロン株(BA.5系統)の特徴に関する知見>

現在、日本では引き続きBA.2系統が主流である。世界におけるBA.4系統及びBA.5系統の占める割合が増加しており、これらの系統はBA.2系統と比較して感染者増加の優位性が示唆されている。世界的には、BA.4系統及びBA.5系統へ置き換わりつつある中で、陽性者数が増加傾向となっている。なお、BA.4系統及びBA.5系統の感染力に関する明確な知見は示されていない。

WHOレポートでは、複数の国から集積した知見によると、BA.4系統及びBA.5系統に関して、既存のオミクロン株と比較した重症度の上昇は見られないとしている。

[89回(令和4年6月30日)新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード 資料1より抜粋]